

VOL.10

ガンゼラフアース倶楽部会報 2016



LOVEEARTH

明日をもっと、**こ**こちよく

GUNZE

わたしたち『グンゼラブアース倶楽部』は、社会貢献活動を行っている団体への支援などを通じてお互いが支え合い、より良い明日実現する仲間になりたいと、2006年4月、グンゼ株式会社の創立110周年を記念し設立されました。みなさまのご支援をいただきながら、今年は11年目を迎えることとなりました。

去年は、ネパールでの大きな地震発生や集中豪雨による河川の氾濫、台湾では大規模な火災なども発生しました。また中東では武装勢力から逃れてきた難民の受け入れが、大きな課題になっています。今年に入り熊本県では大きな地震が発生し、今も沢山の方が避難生活を続けています。グンゼラブアース倶楽部が支援する団体への多くが、このような被災者への支援に尽力しておられます。これからもみなさまからのあたたかいご支援をお願いいたします。

2016年7月

代表幹事

廣地厚



イラスト寄稿 角村 潤子さん

1. グンゼラブアース倶楽部について
2. 支援先報告（関西盲導犬協会・日本クリニックラウン協会）
3. 支援先報告（シャプラニール・ブリッジフォースマイル）
4. 支援先報告（国境なき子どもたち・カタリバ）
5. 支援先報告（エイズ孤児支援 NGO・PLAS・ロシナンテス）
6. 支援先報告（日本国際ボランティアセンター・森は海の恋人）
7. 支援先報告（かものはしプロジェクト・ACE）
8. 支援先報告（アムダ・CIVIC FORCE）
- 9～10 その他の活動
- 11～15 その他の社会貢献活動
16. 決算・会計監査 報告



【2015年度活動】

2016年度4月、新犬舎（訓練棟）が完成しお披露目をしました。盲導犬候補犬の生活面での訓練も考慮した家庭環境に近い造りです。また、木材をふんだんに使用することで木の香りが広がり、とてもリラックスできる快適な場所になっています。その他盲導犬育成と貸与、関西地域を中心に講演活動・イベント・募金活動をしています。

【2015年度支援金使途】

盲導犬育成費用に使用させていただきます。



新しい犬舎で、リラックスしている

(C) 関西盲導犬協会



【2015年度活動】

2015年10月に法人設立10周年を迎えました。10年間で64病院を2,262回訪問し、約7万人の子ども達と出会いました。（2015年度は、国内の34病院に229回、かかわった子ども数 約7,622名。在籍クリニックラウン24名。）これからも、入院中の子どもたちの気持ちに寄り添い、病棟全体へ笑顔の輪を広げていけるように活動を続けていきます。

【2015年度支援金使途】

活動全般に使用させていただきます。



(C) 日本クリニックラウン協会

■特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会

<http://www.shaplaneer.org/about/index.html>



【2015年度活動】

2015年4月ネパール地震発災直後から現地ネパール事務所、東京事務所、またダッカ事務所が連携し支援を開始しました（食糧セットやトタン板の配布、コミュニティラジオの再開支援など）。地震の備えがあまりないこの国、支援が行き届かない地域などもあり、現在も、インドとの国交封鎖の影響などから復興が順調に進んでいるといえない状態です。シャプラニールでは、「自分自身で何が安全か、考え行動できる」ことを目指し、これからは地域の人自身が、今回の地震で役立った人や場所、水源などのリソースを整理して、今後の防災に生かす仕組みを作り上げられるように支援していく予定です。そのほか、バングラデシュやネパールといった南アジアにて、家事使用人として働くこどもたちの支援活動を行っています。

【2015年度支援金使途】

ネパール地震の復興支援活動に使用させていただきます。
(被災者のためのコミュニティセンターの支援、地域防災支援など)



1世帯、5日分の食糧配布例



(C)シャプラニール

■特定非営利活動法人 ブリッジフォースマイル

<http://www.b4s.jp/>



【2015年度活動】

児童養護施設から社会に巣立つ子どもたちが、未来への希望を持って生きられるよう支援する活動に取り組んでいます。

高校卒業と同時に施設を出て一人暮らしを始める子どもたちに、引越しの手続きや金銭管理、危険から身を守る術など、一人暮らしで必要となる知識やスキルを伝えるセミナー（巣立ちプロジェクト）等、自立に向けた支援プログラムを実施しています。

巣立ちプロジェクトでは、受講者の今後の生活を応援するため、支援企業等から生活必需品が贈られます。

【2015年度支援金使途】

2016年1月24日の「巣立ちプロジェクト」修了式では、グンゼラブアース倶楽部から巣立ちを迎える子どもたちに肌着やタイツ、ストッキングを贈りました。



修了式の様子

■認定特定非営利活動法人 国境なき子どもたち (KnK)

<http://www.knk.or.jp/>



【2015年度活動】

イスラム過激派組織により祖国を追われた「シリア難民」に対して、ヨルダンのザアタリ難民キャンプとキャンプ外の公立学校で、緊急教育支援を実施しました。一方、カンボジアとフィリピンの「若者の家」では、ストリートチルドレンや人身売買・虐待にあった青少年、貧困家庭の子どもたちに、衣食住や教育、職業訓練の機会を提供しました。また、昨年ミャンマー北西部で7月から降り続いた大雨により大洪水に見舞われた被災地のうち、特に被害の大きかった学校に対して校舎の修繕と学用品の配布を行いました。

【2015年度支援金使途】

貧困のため学校に通えない子どもたちへの教育支援として使わせていただきます。



(C)国境なき子どもたち

■認定特定非営利活動法人 カタリバ

<http://www.katariba.net/>



【2015年度活動】

「ナナメの関係による対話」によって高校生たちの意欲を高めるキャリア学習プログラム「カタリ場」と、東日本大震災によって安心して学ぶ環境を失った子どもたちに、学習指導と心のケアを実施する被災地の放課後学校「コラボ・スクール」の二本柱に加え、2015年の4月に「b-lab」、6月に「おんせんキャンパス」を開設いたしました。

「b-lab (ビーラボ)」とは、文京区の教育センター（複合施設）の中にある区内初の中高生向け施設です。年間を通じて、学習支援・音楽・スポーツなど様々なイベントを実施し、自分自身の可能性や興味関心を発見する場所になっています。

「おんせんキャンパス」では島根県雲南市から運営を委託され中高生の学びと行動をサポートするキャリア教育を行っています。“まちづくりの担い手となり地域を支える人材”を育てることを目指します。

【2015年度支援金使途】

キャリア学習プログラム「カタリ場」への寄付として使用させていただきます。



(C)カタリバ

■NPO法人 エイズ孤児支援NGO・PLAS

<http://www.plas-aids.org/>



【2015年度活動】

エイズ孤児というのは、HIVで両親、もしくは片親を失った18歳未満の子供のことをいいます。世界で1,780万人いるといわれ、東京都の人口よりはるかに多い人数です。

その約85%がサハラ砂漠以南のアフリカに居ます。私どもが活動しているケニアとウガンダにはそれぞれ100万人以上のエイズ孤児が居るのです。

エイズ孤児は、教育が受けられない、HIVの母子感染のリスク、周りからの差別、偏見など、様々な課題を抱えています。こうした子どもたちに支援を届け、教育を受けられるようにし、子供たちが未来を切り開けるように、活動を行っています。

【2015年度支援金使途】

シングルマザーたちの収入向上プロジェクトに使用させていただきます。



(C)エイズ孤児支援NGO.PLAS

■特定非営利活動法人 ロシナンテス

<http://www.rocinantes.org/>

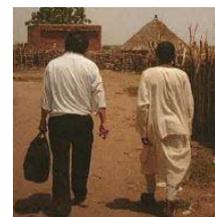


【2015年度活動】

スーダンでの医療支援活動。ハルツーム州ウッドアブサーレ地区は東京都とほぼ同じ面積があります。そこに点在する29の村々を、9名の医療スタッフが医薬品、ワクチンを含む医療機材を満載した一台の車に乗り、2週間かけて宿泊しながら、毎月巡回して医療を行っています。この地区には診療所が存在しませんので、地域住民の方々は月に数時間しか医療を受けられていません。病気になると数十キロ離れた病院に悪路を数時間かけて（通行不能の時もあり）行かなければなりません。そこで、その広大な地区の3カ所に診療所を建設する「土とレンガの診療所プロジェクト」を立ち上げました。1棟目が建設され、2016年度以降に2棟目、3棟目の建設を予定しています。1棟目の診療所（アルセリア村）は3月15日に完成し、診療所で働くスタッフの研修を行っています。

【2015年度支援金使途】

『土とレンガの診療所プロジェクト』に使用させていただきます。



(C)ロシナンテス

■特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター

<http://www.ngo-jvc.net/>



日本国際ボランティアセンター

【2015年度活動】

日本国際ボランティアセンター(JVC)は現在、世界10カ国の地域で活動を続けています。パレスチナ・ガザは、2014年夏にイスラエル軍の攻撃により壊滅的な被害を受けました。JVCは2006年から現地で子どもの栄養失調予防事業を展開、2015年度は、栄養士の研修を受けたボランティア30名が、5歳以下の子どもとその母親、妊産婦を訪ね、個別栄養指導や栄養講習会を実施しました。また子どもたちの栄養状態の検査も行い、クリニックへの紹介も行っています。毎年子どもたちの栄養状態は着実に改善されています。

【2015年度支援金使途】

パレスチナ・ガザでの栄養・保健教育のために使用させていただきます。



(C)日本国際ボランティアセンター

■NPO法人 森は海の恋人

<http://www.mori-umi.org/>



【2015年度活動】

2015年度は、宿泊型体験学習「夏合宿」「秋合宿」と、日帰り体験学習として「森海こどもクラブ」を実施しました。また、各学校の授業の一環として、のべ765名が当地を訪問し、森と海のつながりなどを養殖業等を通じて学びました。昨年5月9日に、緑や森林に関して顕著な功績があったとして、理事長の畠山重篤が「みどりの文化賞」を受賞しました。これは養殖業に関し、常に人と自然生態系の連鎖について考え、豊かな海を守るためには森を大切にするという活動が高く評価されたものです。

【2015年度支援金使途】

森と海とのつながりや自然と人間社会とのつながりを肌で感じられるように心がけた、海の体験学習の活動に使用させていただきます。



(C)森は海の恋人

■認定特定非営利活動法人 かものほしプロジェクト

<http://www.kamonohashi-project.net/>



【2015年度活動】

かものほしプロジェクトは「子どもが売られる問題」をなくすために、カンボジアとインドで活動しています。カンボジアでは、最貧困層の家庭に仕事を作るため、い草の雑貨工房を運営しています。インドでは、児童買春の被害に遭っている女性の救出や、心のリハビリテーション、裁判支援を行っています。これらを通じて、カンボジアでは実際に子どもが売られる問題がほとんどなくなってきており、インドでも多くの女性の支援を行うことができます。

【2015年度支援金使途】

頂いた資金全てを、カンボジアとインドの子どもが売られる問題をなくす活動に使わせていただきます。



(C)かものほしプロジェクト

■認定特定非営利活動法人 ACE

<http://acejapan.org/>



【2015年度活動】

インドのコットン生産地域で、子どもを危険な労働から守り教育を支援する「ピース・インド プロジェクト」は、2014年4月から新たにマッデラバンダ村とタティクンタ村で活動し、現在3年目を迎えています。2村の人口は合わせて約7,600人。義務教育年齢の子どもは約1,360人いますが、その約3割にあたる362人の子どもが、学校に通えずコットン栽培などの労働に従事しています。その背景には、親が十分働けず家庭が貧しいことや、親の教育への意識が不足していること、学校の環境が整っていないことなどの要因があります。そのためプロジェクトでは、親や住民への啓発活動、働いていた子どものための補習学校の運営や公立学校への就学支援、女の子の自立支援、親の収入向上支援などを行っています。その結果、少しずつ住民たちの意識が変わり、おとなや子どもたちがグループを作って、村で児童労働をなくすための活動を行うようになってきました。現在232人の子どもが労働をやめ教育を受けられるようになり、40人の義務教育年齢を過ぎた女の子が職業訓練センターに通うようになりました。

【2015年度支援金使途】

危険な労働から子どもを守り、就学を徹底させる「ピース・インド・プロジェクト」に使用させていただきます。



コットン畑で働く子ども(左)

職業訓練センターの様子(右)



(C)ACE

【2015年度活動】

2015年4月25日にマグニチュード7.8の大地震が発生し、ネパール各地に甚大な被害をもたらしました。また、5月12日にはマグニチュード7.3の余震が発生し、被害が拡大しました。AMDA本部は、4月25日の災害発生の一報を受け支援活動を決定。複数の被災地域に日本を含む6か国から医療チームを派遣し、現地ではAMDAネパールの医療チームと一緒に緊急救援活動を実施。緊急救援活動終了の翌日5月26日から現在に至るまで復興支援活動を実施しています。地震の影響で負傷し、車いす生活を余儀なくされた方々への車いす製造支援など、現在もネパール中部地震被災者の方々への支援活動を行っています。

【2015年度支援金使途】

現在も行っているネパール中部地震被災者の方々への復興支援活動に大切にに使わせていただきます。ネパール在住の日本人理学療法士によると、車いす生活を余儀なくされ、家から出る機会を失ってしまった被災者に対し車椅子の提供を行ったところ、台所で洗い物をしたり、トイレに行くことができるようになり笑顔も増えてきているそうです。AMDAは引き続き被災者の方々へ支援を行います。



AMDA大槌健康サポートセン

(C)AMDA

【2015年度活動】

災害が起きたとき、被災した現場では、あらゆる支援が必要となります。被害状況をいち早く把握し、「一人でも多く、少しでも早く」救うためには、災害が起こる前から企業、行政、NGOなどがそれぞれの特徴を生かして、「サービス」「モノ」「ヒト」「資金」を提供し合い、協力関係をつくっておくことが重要です。Civic Forceは「緊急即応体制を創る」ことを事業の重要な柱の一つとして、準備を進めています。

【2015年度支援金使途】

国内の大規模災害時に迅速で効果的な支援を行うためのNPO/NGO・企業・政府・行政の連携・支援体制創りや訓練等に使用させていただきます。



(C)シビックフォース

■肌着支援

●認定NPO法人ACE（エース）

2015年9月、昨年度に引き続き子ども肌着800枚を送りました。ACEを通じて、インドのマッデラバンダ村、タティクンダ村の子どもたちに肌着が配布されました。

児童労働をなくすための活動をされているACEスタッフの説得によって働くことをやめ、ブリッジスクール、公立学校職業訓練センターに通うようになった子どもたち



©ACE

●特定非営利活動法人ロシナンテス

2015年12月 スーダンの子どもたちに肌着400枚を送りました。ラマダンの時期に、新しいものが来るととても喜ぶイスラムの方々なので、現在巡回診療している地域の子供達に2016年6月頃配布します。

●公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

2016年2月 子ども肌着800枚を送りました。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンを通じて、ベトナム北部の山岳地帯に暮らす少数民族（64村）のお母さんと子どもたち（対象者0～2歳）に子ども肌着が配布されました。

ベトナムでは、近年目覚ましい経済発展の一方で、都市部と農村部、主要民族と少数民族の間で経済的、社会的格差が拡大しています。このような格差は、子どもたちの発達にも深刻な影響を及ぼしています。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、ベトナム北部山岳地帯で保健・栄養事業を実施、乳幼児の栄養改善に取り組んでいます。



©セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

■協働活動

●認定NPO法人ACE（エース）

「しあわせへのチョコレート プロジェクト2016」

チョコレートを食べる人と作る人、みんなが一緒にしあわせになれるように、カカオ生産地の子どもたちを児童労働から守り、日本の企業や消費者と協力して、児童労働のないチョコレートがあたりまえに手に入る社会の実現を目指して活動しています。その活動の一環として「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」をバレンタインシーズンに販売し、その売上の一部を「スマイル・ガーナ プロジェクト」に活用されています。

グンゼは、このプロジェクトの趣旨に賛同し、2013年から毎年「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」をグンゼグループ従業員に斡旋して、2016年は合計1,271パックの「てんとう虫チョコ」を購入しました。2015年度もこの活動に対し認定NPO法人ACEから感謝状をいただきました。



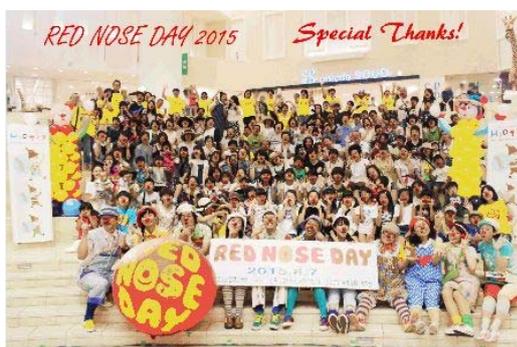
■ボランティア活動参加

『RED NOSE DAY』 8月7日

12時から1分間、あかいはなをつけて笑顔のムーブメントを起こそうというイベント。CSR推進室から3名ボランティアとして参加しました。

【ボランティアの内容】
チャリティガイドでのイベント告知・場内案内・チラシの配布、募金のお願いなど、

(このイベントでの寄付金は、入院中の子どもたちが笑顔になれる時間を届けるクリニック라운の活動に活用されます)



阪急うめだ本店9階 祝祭広場



みんなでダンス!

2015年度 その他の社会貢献活動

■もったいない活動

身近な社会貢献活動として、プルタブや古本等を集めて、NPO等への寄付として交換する活動を進めています。

2015年度	
種別	実績
エコキャップ	298,629個
プルタブ・アルミ缶回収	263.8 k g
使用済み切手	31,096枚
書き損じはがき	0枚
古本	787冊 (13,083円相当)
使用済みカード	0枚

種別	寄付団体
エコキャップ	NPO Reライフスタイル
プルタブ・アルミ缶回収	みんなであつめる福祉に広がる会
使用済み切手	認定NPO 緑の地球ネットワーク
書き損じはがき	
古本	NPO法人 シャプラニール
使用済みカード	NPO法人 ジェン(JEN)

■ピンクリボン運動



ピンクリボン運動を推進している 認定NPO法人J.POSHを2015年度より応援しています。

「ピンクリボン運動」とは、乳がんの正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を推進することなどを目的として行われている世界規模のキャンペーンのことです。日本人女性のうち、乳がんを発症する割合は約12～13人に1人とされています。2015年10月 ピンバッチ 130個を購入し希望する事業所へ配布。2015年11月 ピンクリボン啓発グッズを従業員に斡旋し、17,600円分を購入しました。

■福島ひまわり里親プロジェクト

“福島ひまわり里親プロジェクト”は、2011年3月に発生した東日本大震災後、「福島県に震災復興のシンボルとしてひまわりを植えよう」と始まった活動で、福島との絆づくりや雇用支援につながっています。

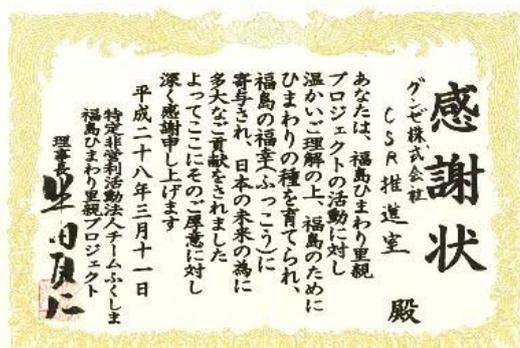
当社はこのプロジェクトの趣旨に賛同し、2012年から毎年、里親（全国の事業所）のもとで育てたひまわりの種を福島に届けています。2015年度は全国の19事業所がこれに参加し、特定非営利活動法人チームふくしまから感謝状をいただきました。



(写真左から) 東北グンゼ(株)、九州営業所



(写真左から) 梁瀬工場、岡山物流



グンゼ包装システム(株)

ひまわりの種 2015年 収穫は8.34kgでした。

2015年度 その他の社会貢献活動

■京都モデルフォレスト運動

持続可能な環境作りのための里山保全活動 グンゼは2010年より参加しています。
2015年度、3回実施しました。

●綾部市鍛冶屋地区（檜林にはびこる竹林の伐採）

5/16、10/17開催



生い茂っていた竹林もスッキリ



●綾部市小畑地区（広葉樹林の保全と遊歩道の設置）

11/7開催



写真の奥が里山



遊歩道作り



★活動後にコミュニケーションをはかっています。



10/17 石焼き釜で焼いたピザ 小畑味噌の味



11/7 味噌鍋 温まる

5/16 流しそうめんと地元野菜の天ぷらなど

みなさまのご参加お待ちしております。

■災害被災者支援活動

- 義援金活動 …経団連の寄付募集の有無や当社との関連度でその都度、実施を判断。
・2015年度実績は下表のとおり。

義援金対象	従業員	会社	合計
2015年ネパール地震	292,224円	292,224円	584,448円
台風18号による被災	250,647円	250,647円	501,294円
2016年2月台湾地震	236,288円	236,288円	472,576円

●災害時における肌着等の支援活動

- ・台湾火災(8月)でのやけど被災者に対して人工皮膚ペルナックを（金額2,200万円相当）寄贈。
- ・台風18号(9月)による被災者支援(茨城県)

アイテム	枚数
肌着	3200枚
ソックス	1800足
パジャマ	1768着

◆公益社団法人CIVIC FORCE（シビックフォース）とグンゼの連携

地震などの大規模災害時に対し、NPO・企業・行政・住民組織などの連携によって迅速で効果的な被災者支援を実施する公益社団法人です。

●熊本地震被害に対する支援について

グンゼグループは被災地の一日も早い復旧を願っています。

2016年4月14日・16日に熊本地方で発生した地震により被災された方にグンゼは、肌着や弾性ストッキングなど 合計14万枚を支援しました。地震発生後（4/17）CIVIC FORCEから肌着支援要請が入り、紳士婦人子供肌着7,000枚、紳士婦人ソックス1,000足を益城町の避難所他に4/19にお届けしました。また同じ数量を4/22にもお届けしました。これからも CIVIC FORCEと協力して取組んで参ります。今回素早く支援活動を行えたのは、団体との日頃から連携体制を強化してきたためです。（CIVIC FORCE 以外の肌着支援については、経産省、くまもと健康支援研究所へ4/22～28にお届けしました。）

～CIVIC FORCE より メッセージ～

「熊本地震活動へのご支援、本当にありがとうございます。2016年4月14日の地震発生翌日より被災地にて捜索救助活動、そして避難所等での被災者への支援活動を継続してまいりました。グンゼ様より大量の肌着が届いた4月19日の夕刻、久々に着替えができるという歓声とともに被災者のみなさんの笑顔をはじめてみる事ができました。グンゼのスタッフの皆さまの迅速なご対応と熱い志に弊団体スタッフ一同、心より感謝いたしております。避難生活が長期化する中、私たちは避難を続ける方や復興に携わる人たちが少しでも前を向いて歩いていけるよう、サポートを続けていきます。引き続き、熊本の被災地にご関心をお寄せください。」



(C)シビックフォース

台湾の三軍總醫院より感謝状を受領

2015年6月27日、台湾・台北郊外の音楽イベント会場で発生した爆発事故では約500の方が火傷などのけがを負われました。当社は日本赤十字社からの要請に応じて、2015年7月、メディカル事業部の人工皮膚（2,200万円相当）を寄贈いたしました。これに対し、2016年1月25日、日本赤十字社の佐藤様から台湾の三軍總醫院（病院）から寄せられた感謝状をいただきました。



（左から）日本赤十字社の佐藤様、児玉社長

収支計算書			
(2015年4月1日から2016年3月31日)			
収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	1,790,952	支援先への寄付	2,119,844
当期収入計			
活動資金 (A会員)	1,187,500	寄付金振込手数料	2,562
// (B会員・賛助会員)	35,000	残高証明証手数料	1,080
預け金利息	243		
当期収入計	1,222,743	次期繰越金	890,209
収入計	3,013,695	支出計	2,123,486

貸借対照表			
(2016年3月31日)			
資産の部		負債・剰余金の部	
科目	金額	科目	金額
預け金	890,209		
		次期繰越金	890,209
資産計	890,209	負債・剰余金計	890,209

2015年度
グンゼラブアース倶楽部会計監査報告

グンゼラブアース倶楽部会則25条に基づき
2015年度グンゼラブアース倶楽部の決算に
あたり、会計監査を実施し、関係書類を監査し
た結果、決算書のとおり、その処理が適正かつ
正確であったことをここに報告いたします。

2016年5月11日

監査委員

氏名 中山佳則 

氏名 高山新 

2015年度
グンゼラブアース倶楽部会計監査委員
中山佳則、高山新

